

令和2年度GLEP海外インターンシップ報告書

学部：看護学部

学年：3年（インターンシップ開始時） 氏名：若松麻海

対象国：中国

期間：3月18日～5月10日

場所：暨南大学

● インターンシップ参加の動機

私が中国でのインターンシップに参加しようと思ったのには、三つの理由がありました。一つ目に、こんなに日本と近い国にも関わらず、中国のことをあまり知らなかったからです。今回のインターンシップをきっかけに、中国の文化や生活を知りたいと考えていました。二つ目に、他国の大学生と触れ合い、意見交換をしたいと思ったからです。アメリカやオーストラリアなど、他の国のインターンシップではあまり現地の大学生と関わる機会がないように感じたので、中国でのインターンシップを選択しました。三つ目に、漢方医学に興味があったからです。新型コロナウイルス感染症の影響で、最終的にはオンラインでインターンシップを行うことになりましたが、当初の予定では現地に行き、暨南大学での授業も聴講することができるはずでした。私は、以前漢方薬を飲んだのをきっかけに、漢方医学に興味を持っていました。そのため、漢方医学の歴史などについて学びたいと考えていました。（インターンシップがオンラインに変わり、暨南大学の授業を聴講することはできませんでした。）

● インターンシップ内容

インターンシップは、暨南大学との提携で行われ、その内容は大きく分けて二つありました。一つ目は、テーマに沿って授業を行うというものです。全部で、8回の授業を行いました。授業のテーマは、「日中の文化の差異について」や「地球人としての自然災害に対する対処法」、「日本語翻訳発表会」などでした。私が内容を決めるときは、暨南大学の学生が私に求めていることは何だろうかということを考えていました。予め、学生から送られてくる質問票から、相手のニーズを考え、それに基づいてパワーポイントを作りました。また、暨南大学では、入学年度と出身地によってクラスが分けられており、それぞれのレベルに合わせて、伝わる日本語を選びながら授業を行いました。授業の進め方としては、まず私がテーマに沿って、日本の現状や問題点について話をします。その上で、暨南大学の学生にも、中国（台湾・香港）の現状や問題点を話してもらい、ディスカッションを行いました。授業後でも質問がある学生には、WeChatというアプリを使って、個人的に質問を受け付けていました。

二つ目は、日本語で書かれた卒業論文を添削するというものです。暨南大学の日本語学部の学生は、日本語で卒業論文を執筆します。私は、このインターンシップの期間中に、「社会構築主義から女性語を見る」という論文の添削を行いました。この論文では、日本語の女性語が生まれた歴史について述べられており、私が知らない言葉や知識もたくさん出てきました。そのため、私自身も辞書やインターネット、本を用いて、様々なことを調べながら、添削を行っていきました。ワードの

校閲機能で、間違っているところには赤で線を入れ、わかりにくいところにはどこがどのようにわからないのかコメントを付けました。

● 学んだこと、得たこと

私は今回のインターンシップでたくさんのことを学びました。一つ目に、授業の作り方を学ぶことができました。最初は、暨南大学の学生が私にどんな授業を求めているかがわかりませんでした。そのため、授業を任されても、何を話したら良いかわからず、不安がとても大きかったです。しかし、授業を進めて、たくさん質問をもらうにつれて、暨南大学の学生のニーズを知ることができました。そのため、それに合わせて授業を展開していくことができました。大人数の前で授業を行うことは初めての経験でしたが、どうしたらよりよい授業をできるかということについて真剣に考えた二か月間でした。

二つ目に、中国や香港、台湾と日本との文化の違いについて知ることができました。内招生（中国大陸出身）、外招生（中国大陸以外の出身）と様々な出身の学生がいて、食文化の違いや防災意識の違いなどたくさんの違いがありました。一方で、日本と似ているところも多くありました。また、表面的なコミュニケーションだけでなく、ジェンダーや災害、医療など、国の内面的な話をすることができたことも良かったです。この研修を通して、中国の文化について知ると同時に、もっと知りたいと思う気持ちが強くなりました。

三つ目に、自国の文化を見直すきっかけになりました。自分の国の文化を他国人に紹介するには、私自身が自国の文化について知っている必要があります。しかし、私は興味がある文化については詳しく知っていても、興味がないものについてはあまり知らないことに気づかされました。また、暨南大学の学生に日本語を教えるときは、自分が普段使っている日本語は正しいのかということは何度も考えました。そして、普段よりも日本語について調べる機会が増えました。このインターンシップをきっかけに、日本の文化についても意識を向けることができたので、これからも日本文化や日本語について勉強したいと思いました。当初の予定とは変わり、オンラインでインターンシップを行う形になりましたが、個人的に質問をしてくれる学生もたくさんいて、非常に有意義なインターンシップになりました。

● 印象に残ったこと

私が印象に残ったのは、学生から「日本では、女性差別がどのくらい残っていますか？」と質問されたことです。私は普段から、日本のジェンダー問題に意識を向けているつもりでした。しかし、いざ日本での現状について聞かれると、答えるのがとても難しかったです。このことから、その社会問題についての知識があるだけでなく、日本や社会の現状についても知っていて、それを自分の言葉で説明できるということがとても重要であると感じました。

● 苦勞したこと

苦勞したことは授業の準備です。授業のテーマは決まっていますが、それについて何を話すかは私自身が決めます。インターンシップの最後に、自然災害についての授業を行いました。その時も何について話そうかすごく悩みました。自然災害の種類を多く話せば話すほど、一つの自然災害

について話す時間は短くなるし、一つの自然災害をとっても発生過程を話そうか、それともその災害への対策を話そうかと色々な事を考えました。しかし、自分の中でのテーマを一つ決めることで、授業内容を決めることができました。最後の自然災害の授業では、「防災先進国と言われている日本の防災対策を一つでも二つでも覚えてもらって実行してもらおう」という自分なりのテーマを設定し、授業を行いました。

● インターンシップ参加に当たって必要な語学力・スキル

インターンシップ（中国）に参加するにあたって必要な語学力は特にありませんが、普段自分が使っている日本語だけでなく、正しい日本語を学ぶ姿勢というのはとても大事だと思います。ネイティブスピーカーとして日本語を教える立場になるので、勉強は必須です。また、中国語から日本語に翻訳するときに、中国語を勉強しておけばよかったと思うことは何度もありました。

必要なスキルは、わかりやすいパワーポイントを作るスキルです。あとは、日本の現状を様々な角度から見ることで良かったら良いと思います。

● この経験を今後どう活かしていくか

私は将来保健師として働きたいと考えています。保健師は様々な年代、立場の地域の住民と関わっていく仕事です。今回、中国の文化について知ることができました。このことは、私が今後、日本在住の中国人に医療や福祉を提供する際に、相手の気持ちを想像するのに役立つと考えています。また、相手のニーズから、授業内容を考え、授業を行い、評価するというPDCAサイクルは、保健師として、事業を行っていくときも同じです。今回学んだことを、保健師としての活動に活かしていきたいと考えています。

● 後輩へのメッセージ

私は、今回のインターンシップに参加し、「やっぱり国際交流は最高に楽しい！」と思いました。自分とは違う文化で生きてきた人と話をし、様々な情報を共有したり、ある問題についてディスカッションをしたり、こんなにわくわくすることは他にないと思ってしまいました。現在は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、海外に行くということは難しいですが、国際交流をしようと思えば、その手段はいくらでもあります。特にGLEPの皆さんは、大学からたくさんの情報が来ていると思います。海外に行けないから仕方がないではなく、こんな時だからこそ、想像力を働かせて前向きに取り組んでもらいたいです。

以上

